

WELCOME MEI EKI

名古屋大学 COI-NEXTマイモビリティ共創拠点×NAGOFES2024×CAMIPシンポジウム

名古屋駅地区街づくり協議会の取り組み ～市と連携したまちの将来像検討～

名古屋駅地区街づくり協議会 事務局

2024/11/8

名古屋駅地区街づくり協議会 概要

【設立趣意】

名古屋駅地区が 『 訪れ・働き・学び・住みたい街 』
となるため魅力向上策を共に考え、提言し、活動する。

【設立】 2008年3月(29法人)

【会員】 正会員 43法人

賛助会員 69法人 ※2024年4月

【オブザーバー】 名古屋市リニア住宅都市局

関連都心開発部

リニア関連・名駅周辺開発推進課

【事務局】 トヨタ不動産(株)

【財 源】 年会費等 ・約780万円

事業費 ・約240万円

(おもてなし花壇事業協賛金)

・440万円

(国家戦略特区道路占用事業費)

※2023年度

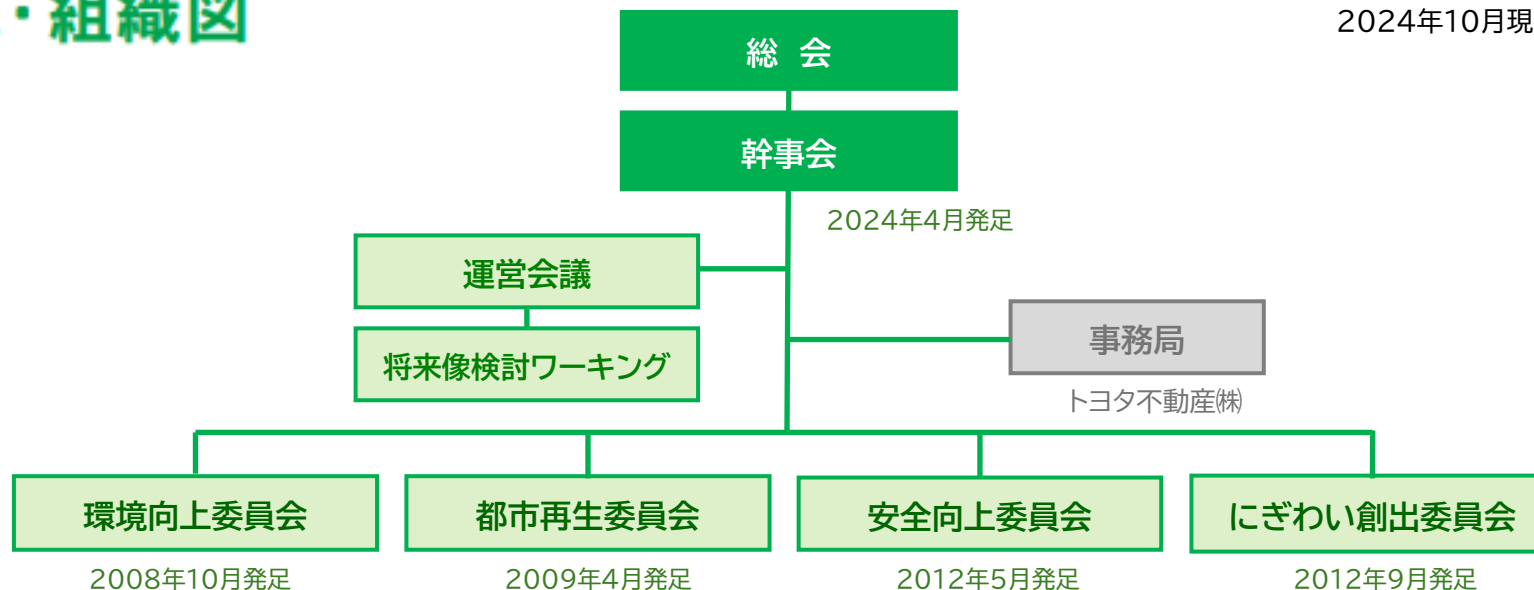
■活動エリア



約120ha

■会の構成・組織図

2024年10月現在



清掃活動



行政との意見交換



防災関連ガイドブック



名古屋駅地区綱引き大会
新エリアイベントとして今年度より開催！

■名古屋駅周辺まちづくり構想(2014年)



■ 目標とするまちの姿

世界に競たるスーパーターミナル・ナゴヤ

—国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち—

高いレベルの豊潤性を備えたまちづくりを着実に進めるとともに、広く視野をもち、世界の人々が集まり、魅了し続けるまちを目指します。

■ まちづくりの基本方針

【基本方針1】 国際的・広域的な役割を担う地域の拠点・顔を目指す

- (1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2) 玄関口にふさわしい品格とにぎわいを感じさせる顔づくりを進める
- (3) ビジネス拠点・交流拠点にふさわしい安全性を確保するとともに、伝統文化の少ないまちを形成する

【基本方針2】 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の連携利便性を向上する

【基本方針3】 都心における多彩な魅力をもったまちづくり、つないでいく

- (1) 城下町から超高層ビル群まで新旧織り交えた多様なまちの魅力を得て、活かす
- (2) 人が主体的に集い楽しい空間を形成し、豊かさを高める

【基本方針4】 リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する

- (1) まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する

2014年9月策定

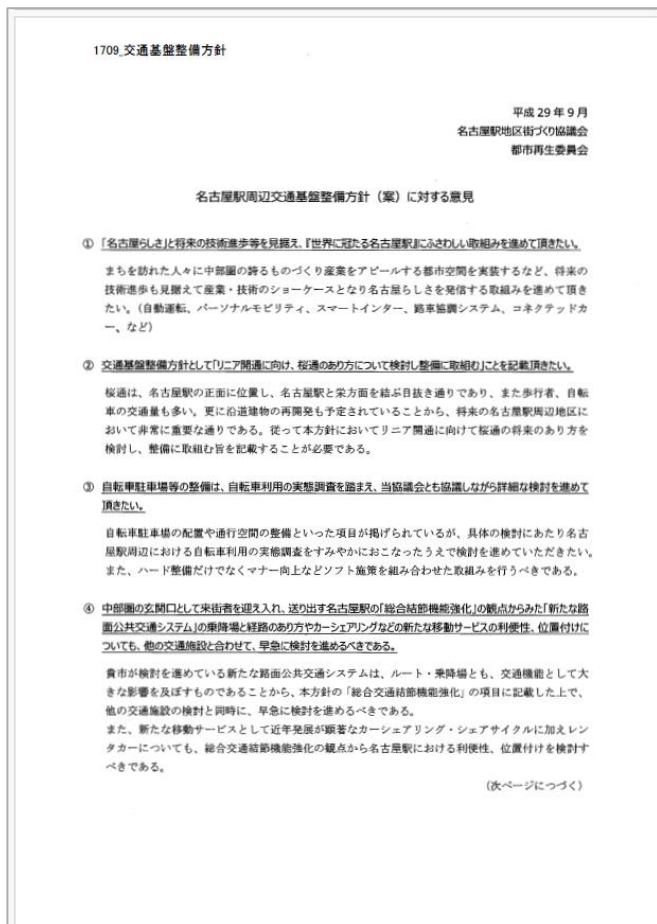
■名古屋駅周辺交通基盤整備方針(2018年)



2018年3月策定

2017年9月 提出

『名古屋駅周辺交通基盤整備方針(案)』(名古屋市)に対する意見書



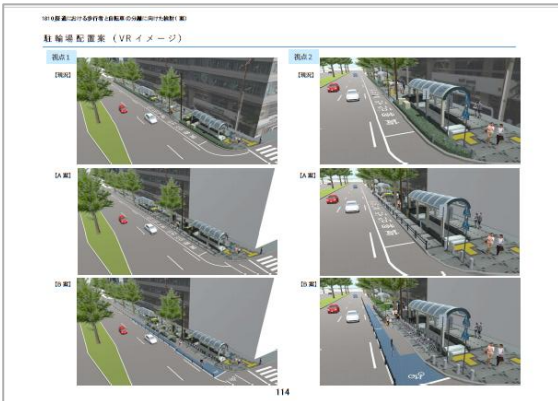
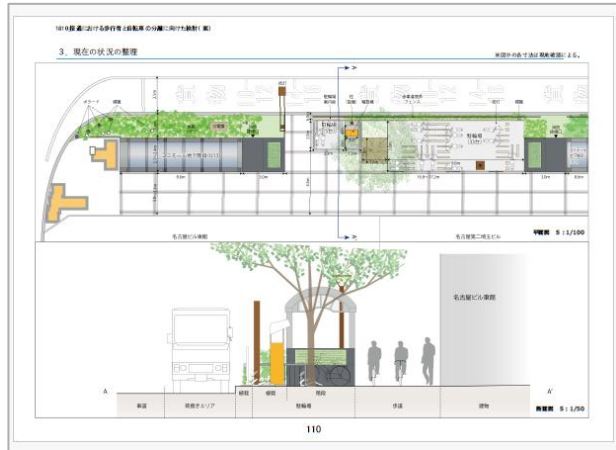
【内容(一部)】

1. 『世界に冠たる名古屋駅』にふさわしい取組みを進めてほしい
2. 「リニア開通に向け、桜通のあり方について検討し整備に取組む」ことを記載してほしい
3. 自転車駐車場等の整備は、自転車利用の実態調査を踏まえ、当協議会とも協議しながら検討を進めてほしい
4. 「新たな路面公共交通システム」の乗降場・経路のあり方や新たな移動サービスの利便性、位置づけについても早急に検討を進めてほしい

など

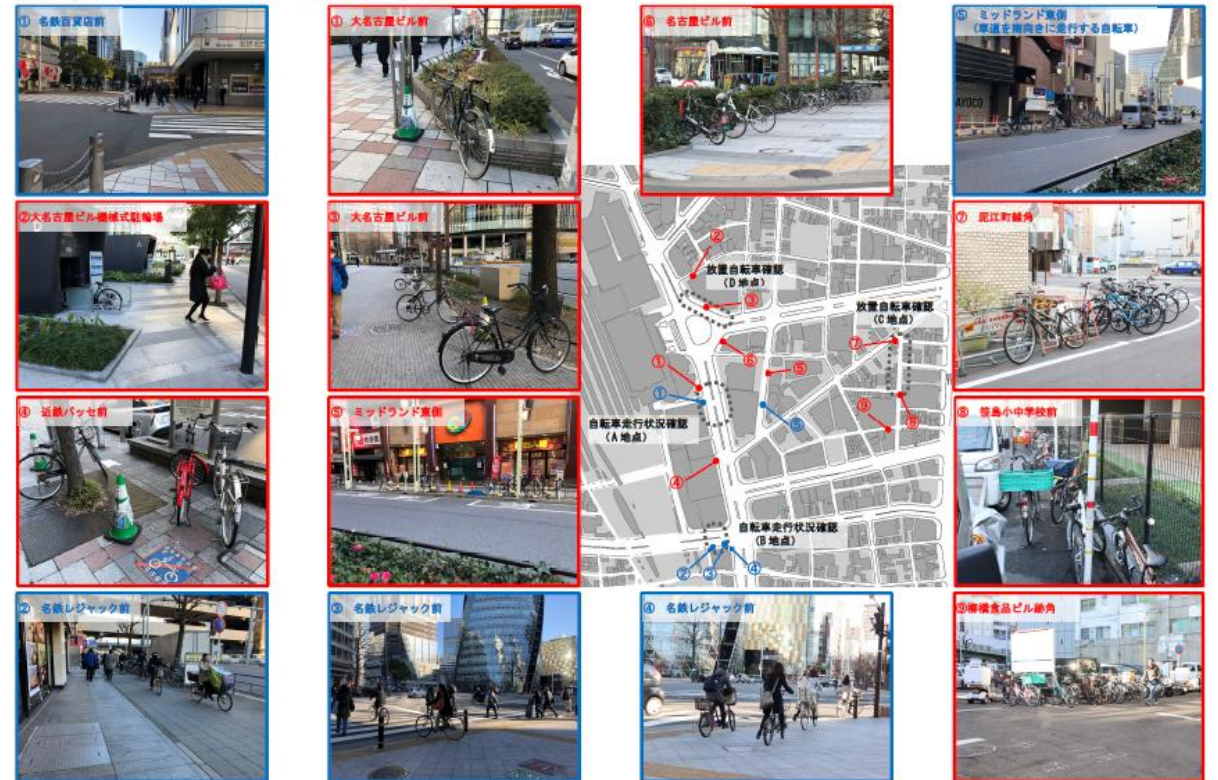
交通基盤に関する取り組み例

2018年度
桜通における歩行者・自転車の分離に関する検討



2019年度
自転車利用実態把握調査
自転車の通行数、違法駐輪の状況などを調査

2020年1月30日(木) 8:00~9:00 事前調査



交通基盤に関する取り組み例

2021年2月10日

名古屋市自転車活用推進計画(案)に対する意見

名古屋駅地区街づくり協議会
都市再生委員会

標榜の件につき、下記の通り意見を提出致します。ご査収の程よろしくお願ひ致します。

意見①
「自転車活用推進計画(案)P42 空間再配分が可能な路線や道路の幅員が広く自動車の規制速度が高い路線(50 km/h 超)については自転車道、その他の路線においては自転車通行帯での整備を基本とし、安全に走行できる空間を確保します。自転車道や自転車通行帯での整備が望ましいが必要な幅員が確保できない箇所については、暫定的に車道混在や車道走行を促す路面表示等の整備を行います。」
→「車道混在や車道走行を促す路面表示等の整備」とはどのような整備内容を指すのでしょうか。
→名駅周辺では道路交通量が多く自転車道や自転車通行帯の整備できない場合も想定されます。エリアごとの特性により整備内容や時期も異なることに配慮をお願いいたします。下線部加筆例「地域の特性を踏まえ、暫定的に車道混在や車道走行を促す路面表示等の整備・検査を行います。」

意見②
「自転車活用推進計画(案)P43 自転車の事故対策及び交通ルール周知のため、自転車の交通量や事故などが多いエリア、歩行者や自転車が集中するエリアを「優先エリア」として設定し、そのエリア内で自転車の交通ルールの周知を目的とした路面表示の整備と、歩行者、自転車、自動車の通行位置の分離を目的とした自転車通行空間の整備を行います。」
→名古屋駅周辺は優先エリアに設定されるのでしょうか。

意見③
「自転車活用推進計画(案)P45 ①自転車駐車場の整備 柔軟な料金制度の採用」
→市が設置する駐輪場について、利用の分散を図るためにも利便性に合わせた料金設定に取り組んでいただきたい。(例えば、都心への過度な流入を避けるために都心と郊外にも料金の差をつける、駅直近への集中を避けるために駅直近と駅から離れた場所で料金の差をつける)

路上駐輪場の料金差
による利用均等化など、
市の計画に対して
意見を提出

2021年2月提出
「自転車活用推進計画(案)」
(名古屋市)に対する意見書

2022年3月30日

名古屋市 住宅都市局 リニア関連部心開発部
リニア関連・名駅周辺開発推進課 御中
緑政土木局 路政部 自転車利用課 御中

名古屋駅地区街づくり協議会
都市再生委員会

名古屋駅地区周辺の自転車の活用の在り方について

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶ひ申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当協議会では名古屋駅周辺の自転車の活用につき、現状の課題を抽出すべく議論を重ねてまいりました。つきましては、下記の通り課題の取りまとめを行いましたので、今後の名古屋駅周辺のまちづくりなどに活用いただきたく、ご提出させていただきます。何卒ご高覧の程、よろしくお願ひ申し上げます。

また、当協議会では今後も、名古屋市と連携しながら自転車活用の在り方について議論を進めてまいりたいと思っておりますので、お力添えを賜りたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

記

(1) 一時利用のしづらさおよび目的地付近での駐輪
駅前付近の利便性の高い路上駐輪施設は平日を中心に通勤・通学などの長時間利用が多く、一時利用がしづらい状況になっています。
また、駅周辺全体を見ると、駐輪施設の数には満足しているものの、乗訪者が利用したい駐輪場所に偏りがあり、目的地付近に自転車を停めることができないといった状況も発生しているのではないかと考えられます。
このことが違法駐輪の増加や、ビルの空きスペースへの自転車放置に繋がり、結果として適正に自転車を停める人と放置する人の不公平感を生むと共に、景観の悪化にも繋がっていると思われまます。
利用者目線での路外駐輪場の整備や、民間駐輪場利用の周知、長時間利用・一時利用の区分けができるような柔軟な料金体系の導入といった対応も課題の解消に繋がる方法ではないでしょうか。

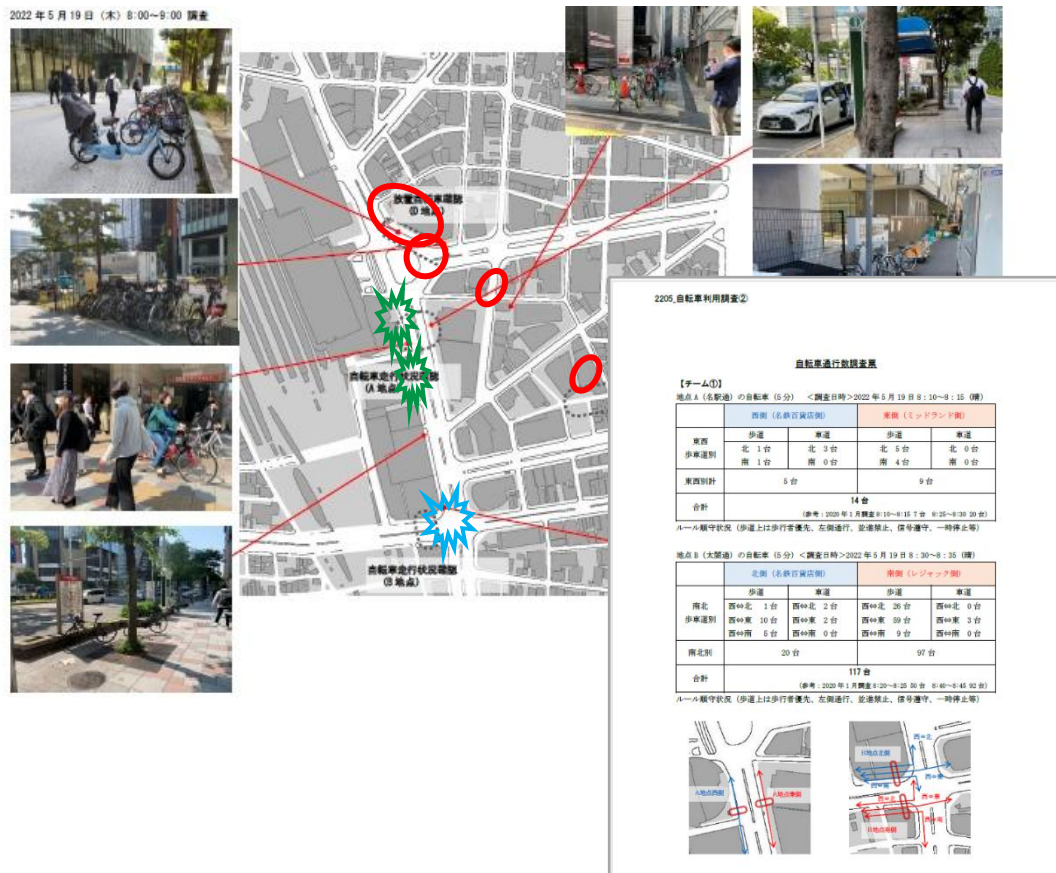
対応(案)
①料金体系の見直し
・利便性の高い駐輪場における短時間利用の優先化/長時間利用者の稼働率が比較的低い駐輪場(駅から離れた場所、民間駐輪場 他)への誘導。

名駅地区の自転車
利活用に関する課題
を抽出し、各項目への
対応案を取りまとめ

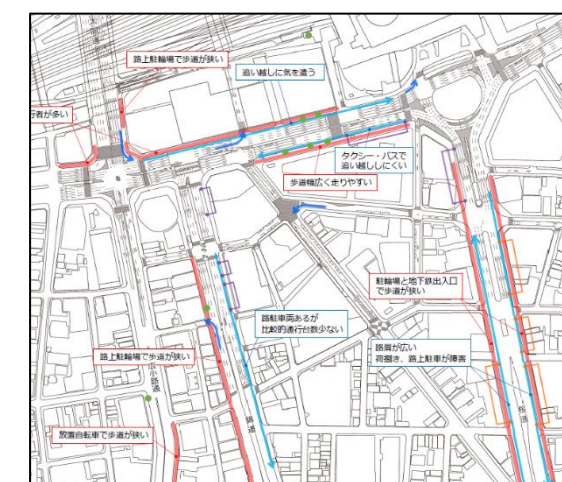
2022年3月提出
『自転車活用の在り方』

交通基盤に関する取り組み例

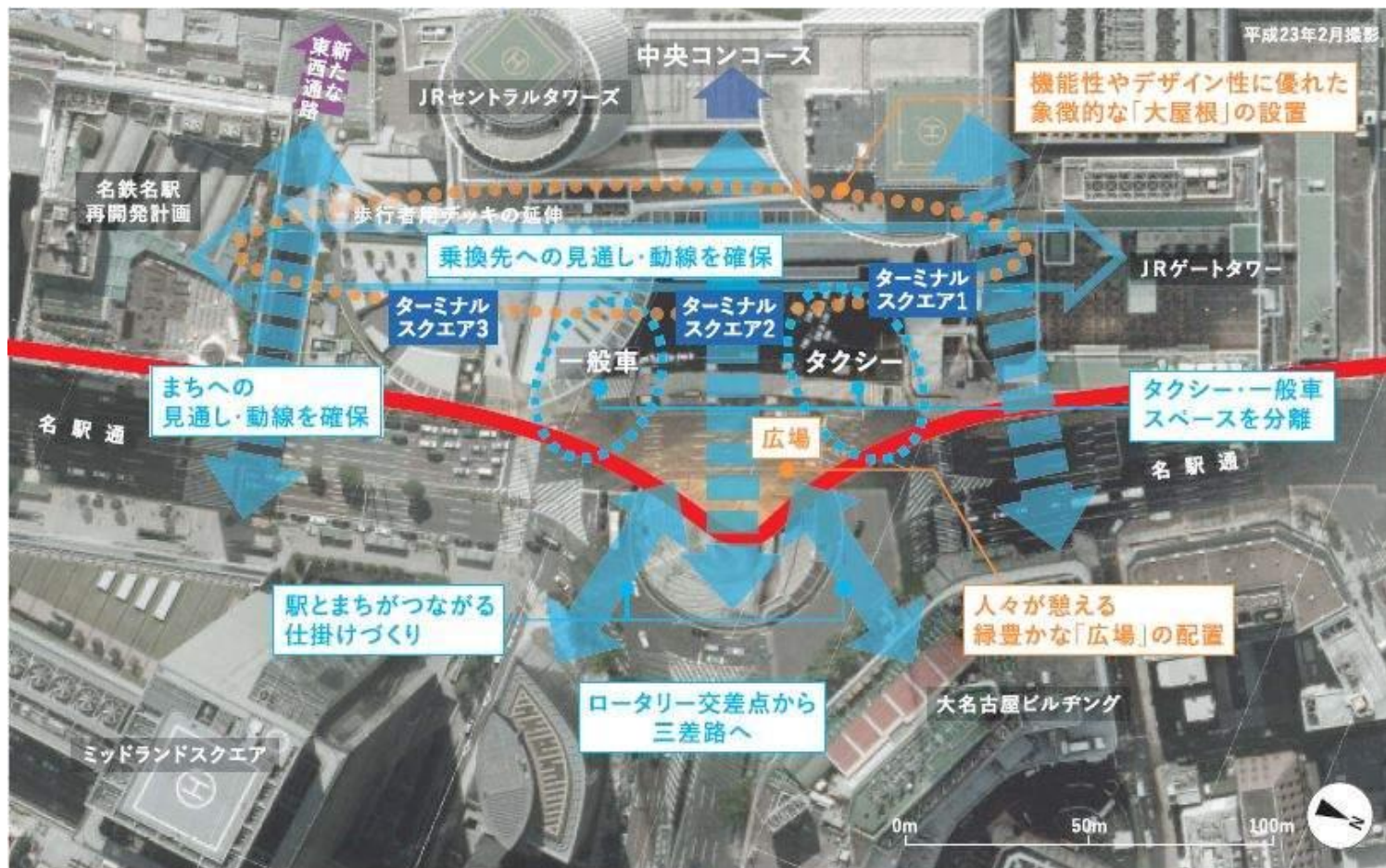
2022年度 自転車利用実態把握調査 (2019年度と比較)



2023年度 自転車・電動キックボード走行調査・意見交換



名古屋駅周辺交通基盤の目指す姿



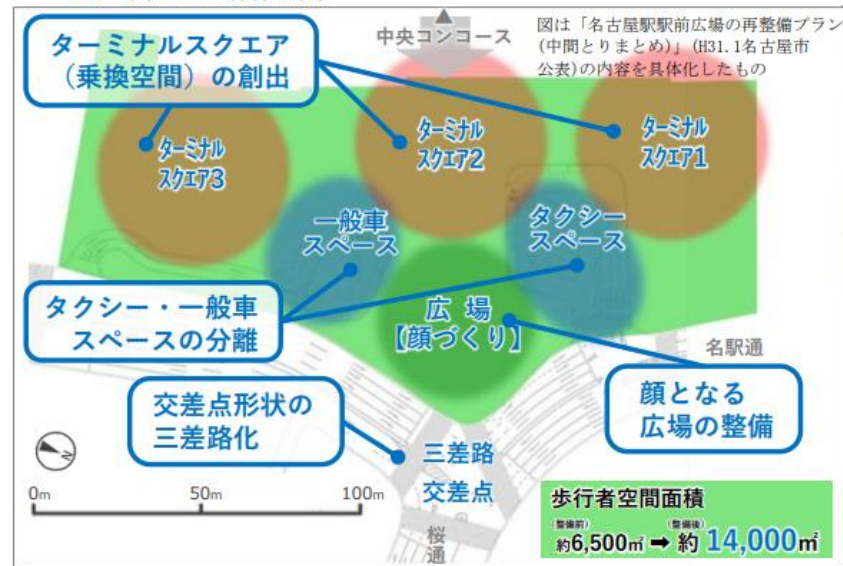
空間機能

ユニバーサルデザイン等に基づく空間形成の実現
「わかりやすさ」「心強さ」「名古屋らしさ」

交通機能

駅へのアクセス性の向上、
多様な交通モードの結節機能強化の実現

■ 地上部の整備内容



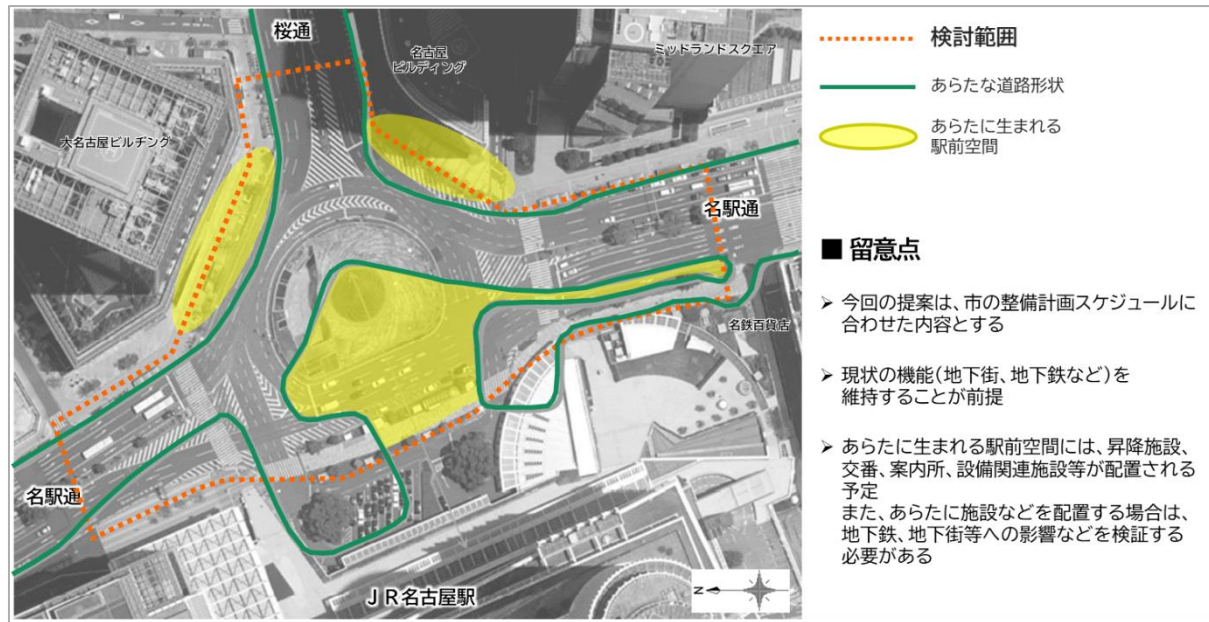
※交通施設、昇降施設、屋根等の施設の規模や配置等については、今後引き続き関係者等と協議、調整を進めていきます。
※駅前広場内に、交番、案内所、店舗等を配置することを検討しています。

将来像検討ワーキング

構成メンバー： 駅前広場に面する会員企業7社+名古屋市

名古屋市が進める名古屋駅前再整備計画に対し、

地元として「あるべき姿」を検討するワーキンググループを組成



検討対象範囲(黄色)

あたらしい駅前空間づくりワークショップ

開催日時： 2023年12月17日(火)

参加者： 55名 (会員企業、大学生)

ワークショップのまとめ

駅前広場では？

憩う ■ 緑を感じ、木陰で一息つくことができる

- ・芝生の上で、座り、寝転んで駅前の魅力を感じながら憩う
- ・構造物を活かしたベンチ、木陰下のベンチで一息つく、待ち合わせができる

楽しむ ■ 人を引き寄せる多彩なイベントで賑わい、楽しむ

平日・休日、昼と夜、違った姿を見せ、多くの人が集う

- ・名古屋ならではの「食」「モノ」を楽しめる
- ・大小さまざまなイベントがあり、人を引き寄せる(スポーツイベント・アートイベント、ヨガ、マルシェなど)
- ・巨大デジタルサイネージを活かした興行で賑わいを創出する

感動する ■ シンボルで名古屋を感じる

- ・東海にゆかりのあるモチーフを用いた演出でエリア愛を感じる・発信する
- ・新モビリティなどで次世代を楽しむ

■ ビューポイントで記憶に残す

- ・周囲の高層ビルを映す水盤で、違った名古屋の魅力を感じる
- ・圧巻のビル景観を生かしたフォトスポットで記憶する
- ・展望台から3つの通りの景観を眺める

対岸の広場では？

名古屋を感じる

- 名古屋の食・モノをPR、新たな流行を感じる
- ・名古屋ならではの「食」を楽しみ、モノを購入できる
- ・昼はカフェ、夜はBAR・屋台でちよつとした時間を過ごすことができる
- ・チャレンジショップで新たな流行を発信する

対岸歩道

休息する

- まちなかに、「ほっと」一息つくことのできる空間がある
- ・ちょっと腰を下ろして、コーヒーを飲みながら一仕事できる

広場

ブラ

- 情報
- ・街の匂(ブライ)

あたらしい駅前空間づくりの提案

2024年1月 名古屋市 住宅都市局へ提出

将来像検討WGでの議論・検討の結果を取りまとめ、
「新しい駅前空間づくりの提案」として名古屋市へ提出



あたらしい駅前空間づくりの提案

名古屋駅地区街づくり協議会 将来像検討WG
2024年1月17日



※当資料内の文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

提案1 まちの景観を活かし、みどりに囲まれた憩いの空間をつくる

現在の
名古屋駅地区

昭和30年代～40年代、交通課題の解決のため、「地上は車、人は地下」という「歩車分離」の発想でまちが造られ、現在に至っています。そのため地上は「車が中心」の街として発展してきました。

これからの
名古屋駅地区

新しい名古屋駅前では、地上の歩行者空間が広がり、ウォーカブルな「人が中心」の駅前へと進化していきます。訪れる人々が、より歩きやすく、居心地が良いと感じる空間づくりが必要です。

実現に向けた具体案

1. 木陰やまとまったみどり
2. 一息つく、佇む、休憩できる
3. 地上の景色を楽しむ

1. 木陰やまとまったみどり

●木陰ができる樹木



目にも優しく、日差しや小雨を和らげる木陰をつくることで、誰もが心地よく過ごせる空間になります。

●構造物を活かした壁面緑化



地上のインフラ設備も豊かなみどりが覆うことで、無機質を感じさせない駅前になります。

●環境への配慮



都市の緑地は、ヒートアイランド現象の抑制など環境対策につながります。

実証実験 第1回

実施目的: 滞在空間ニーズを検証

実施期間: 5月30日(木)~6月1日(土) 10:00~17:00

実施場所: 名古屋ビルディング前歩道

- ・延べ利用者数 60名
- ・利用者アンケート 47名

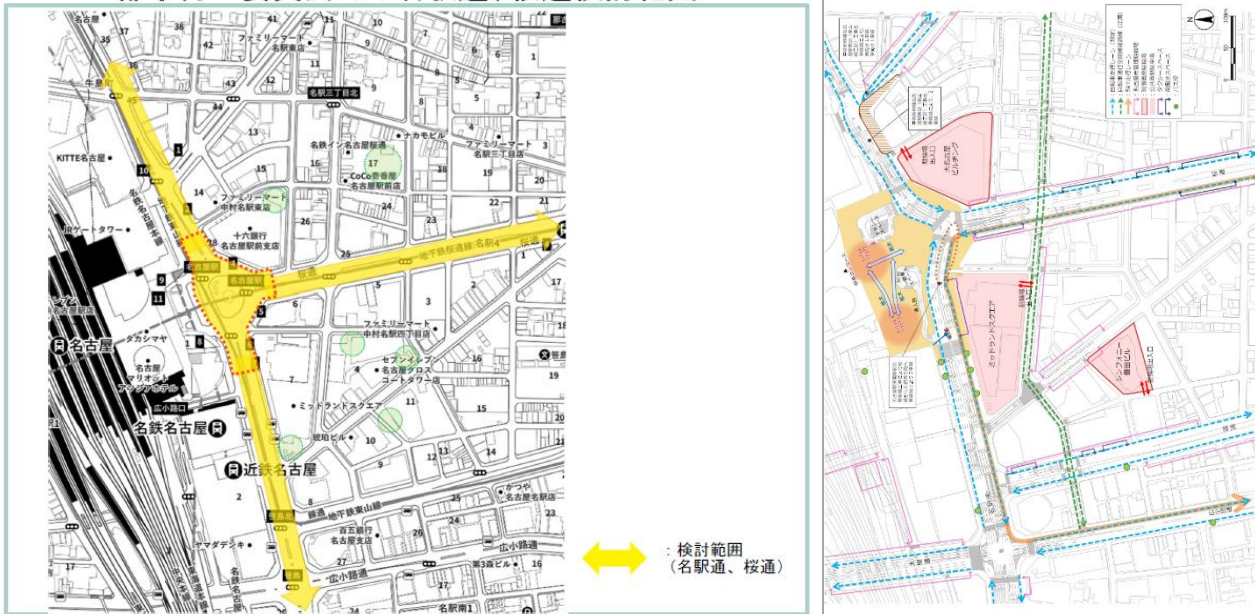


実証実験 第2回

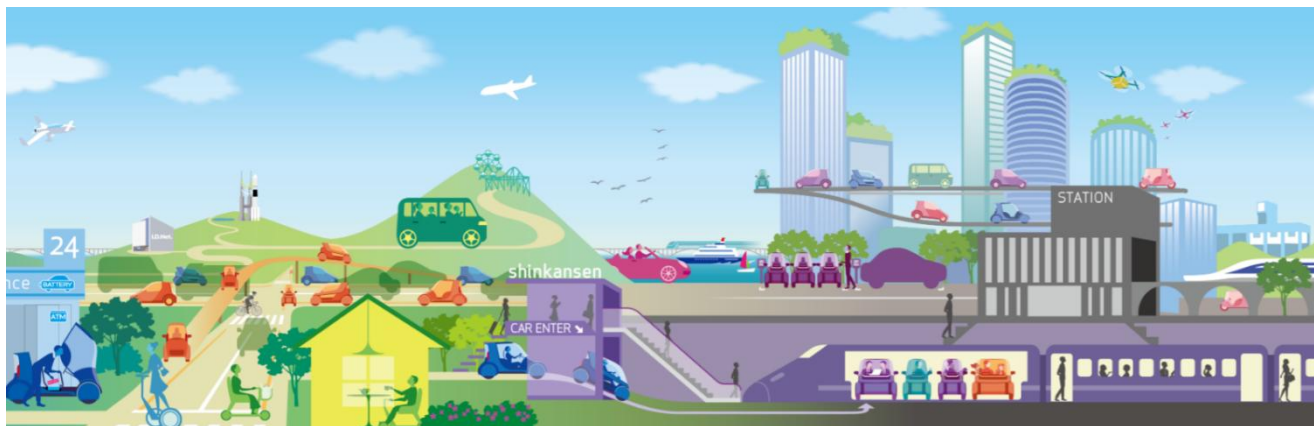
・実施期間: 11/21(木)~11/23(土)
11:00~19:00

・実施場所: 名古屋ビルディング前 歩道
及び 名古屋ビルディング内
公開空地

都市再生委員会での検討範囲・検討状況



(資料:名古屋HP)



出典:名古屋大学モビリティ社会研究所(GREMO) WEBサイトより



出典:『新たな路面公共交通システム「SRT」について』(名古屋市)
『SRTトータルデザイン及び東西ルートの走行ルートと停車箇所図』(名古屋市)

ご清聴ありがとうございました